夕暮れの近づいたシャンゼリゼ通りの街並みに、クリスマス・イルミネーションがいっせいに浮かび上がる。

(きれい。観覧車だ)

石造りのお城みたいな古い建物も高級ブティックのショーウィンドウも観覧車も、ひとつの景色のなかでしっくり馴染み合っている。

はらはらと雪が降ってきて、目に映るものすべてが、映画のようだ。

「メリー・クリスマス」

カフェの店員が、そう声をかけてくれる。

「メリー・クリスマス」

YUKIはパリにいた。クリスマスと新年は、彼と一緒に休暇を過ごす。少しでも時差ボケを治してロンドンへ入ったほうがいいのでは?そう提案してくれたのも彼だった。クリスマスはパリで、新年はニースで。そしてカウント・ダウンはモナコで過ごそうと計画していた。

ニースまでの飛行機のなかで、ノートを広げ、1997年を振り返る。

ナイス、ニース! 来年は寅年です。

今年はすごく充実してて早かった。

１月パリ行って、ベニス。３月『THE POWER SOURCE』が出て、

急にやせる。誕生会やって25才になる。

アルバムはメチャ売れ、200万枚いっちゃう。ビックリ。

ツアーに出る。5月代々木。6月にロンドンへ1ヵ月。

7月と8月スタジアムやる。秋は……秋は何してたっけ？

「LOVER SOUL」が出て、テレビ出たっけ。それから手術をする。

たくさんたくさん、いろんな人と会う。

退院してもうすっかり12月だ。

日本に帰ったら26才になるなあ。

1997年の最後に、私は何を見るんだろう。

着いてすぐ外でランチ。市場の果物売り。サンセット・ビーチを歩いて、バーでキールロワイヤル。隣の席に、泣いている女とそれを慰める男。崖の上のレストラン、パラグライダー、タクシーでモナコまで。公国には毛皮のおばさまとおじさま、シャネルにセリーヌ。ディオールのピンクの毛皮、プラダのピンヒールがやばいくらいかわいい。

ばっちり正装して、年越しをモナコのカジノで。イタリア語と英語とフランス語の入り交じったカウント・ダウン、あまりにいろんな言語が飛び交って、わけのわからないうちに、1998年はやってきた。

「ハッピー・ニュー・イヤー」

シャンパンを開けてそこらじゅうの人と乾杯して、彼と抱き合う。

（あたし、今、どんな顔をしてたのかな……?）

YUKIは、なぜか、とても泣きそうだった。何もかもが現実離れしたゴージャスな世界のなかで、YUKIの気持ちだけが寂しく揺れている。

（彼でなきゃダメなのに。……あたし、どうするつもりなんだろう）

兄妹のような、同志のようなふたり。一途なところもよく似ていた。しかし、悲しい予感だけがつきまとっている。この旅の間も、ずっと。

「ラッキー・ガール！」

カジノでジャックポットを出して、なんと60万、勝つ。サインをして、その場でキャッシュで受け取る。

1998年が始まってまだ1時間と経ってはいない。これは例の水瓶座にとって12年に一度の大幸運期の余波だろうか……?

いずれにせよ、少し調子が良すぎたのかもしれない。

YUKIがそのことに気づくまで、もう時間はかからなかった。